

1 はじめに

現行の学習指導要領(平成 29 年告示版)では、特別活動編第 1 節学級活動 において、「(3)一人一人のキャリア形成と実現」が新たに設けられた。学級活動 (1) ～ (3) を通して、以下のような学習過程を充実させることが、解説で述べられている。

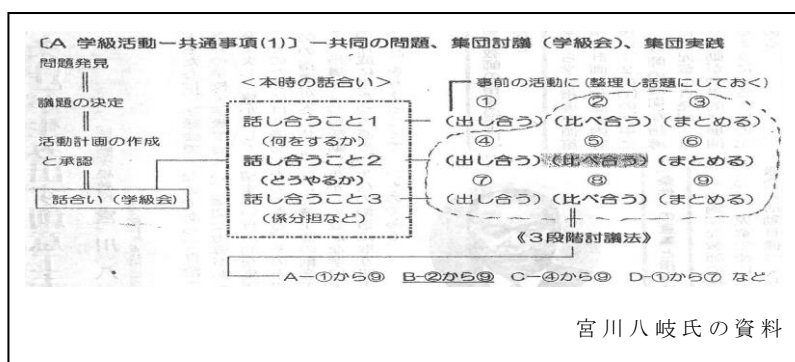
①問題の発見⇒②解決方法等の話し合い⇒③解決方法の決定⇒④実践⇒⑤振り返り

以上を踏まえて、課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成して意思決定する・・・という学習過程を重視した手法である「3 段階討議法」での学級会の進め方を実践することとした。

2 児童が自ら考え、行動し、よりよい社会を創造できる指導の実際

個の多様な意見を生かしながら、よりよい社会を創造し、豊かな集団決定ができるようにするために、話し合い活動では「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる (決める)」で展開した。

また、決定した内容を実践し、朝の会や帰りの会に振り返る場も設定した。その際、ワークシートやタブレット等を活用し、短時間で効果的な活動になるよう工夫を行った。



宮川八岐氏の資料

〈発達段階に応じた配慮(例)〉

低学年

教師が司会団の仕事の見本を提示し、徐々に児童に任せる。

中学年

本時の目当てを明確にし、マニュアルを基に進行させる。

高学年

計画委員を立ち上げ効率よく進捗するとともに、臨機応変な対応ができるよう指導する。

柱を立て、「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる (決める)」の順に話し合いを進めることで、今何をしている時間なのかを明確にし、児童の混乱を防ぐように(例) 議題「〇年〇組の行動目標を作ろう」

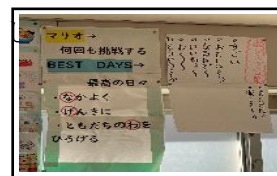
(1) 「出し合う」 ・あいさつ ・ポジティブ言葉を使う 等

(2) 「比べ合う」 (自分の意見) あいさつを返す+ (理由) 簡単にできる

ポジティブ言葉

みんなが前向きになる

(3) 「まとめる」 両方大事だが、あいさつの方が実行しやすい。取り組む順番を①あいさつ ②ポジティブ言葉にして、1つ1つ達成していこう。



3 成果と課題

「3 段階討議法」を活用したことで児童が見通しをもって取り組むことができた。また、それぞれの意見のメリットやデメリットを比較することで議題にあったまとめ方をすることができた。一方で、臨機応変な話し合いの司会進行のスキルの向上に課題がみられた。